



## 令和5年度 第5回理事会の開催

第5回理事会を令和5年12月4日(月)ネストホテル松山で開催した。議題及び協議結果は以下のとおりとなった。

### 1. 議 題

#### (1) 次期役員選考について

事務局より資料に基づき、総務委員会で次期役員選考方法について協議した結果の説明があり、原案通り承認された。また、各地区では、次回理事会までに推薦役員を決定し報告することとなった。

#### (2) 第12回定時総会について

事務局より資料に基づき、総会内容等について説明があり、その旨準備することで承認された。

#### (3) 適正処理推進事業等活動支援金交付申請について

事務局より資料に基づき、松山地区適正処理推進事業計画について説明があり承認された。

#### (4) 新規会員加入及び退会の承認について

事務局より資料に基づき、正会員1社の入会と1社の退会及び1社の業態の変更(中間処理の取得)について報告があり承認された。

集、新年名刺挨拶広告及び来年の表紙のテーマ等について審議された旨、第4回総務委員会では本日の理事会へ提出する議題について審議された旨報告があった。

#### (2) 全産連報告

事務局より資料に基づき、第4回処分場早期安定化分科会、第2回建設廃棄物部会運営委員会の審議結果について報告があった。

#### (3) その他

新年名刺挨拶広告を理事・監事及び青年部会長へお願いしたこと、今年度の県外視察研修については東北・関東方面へ11月28日～29日の日程で実施したこと、11月22日に四国八十八ヶ所遍路道路清掃活動を実施したこと、災害廃棄物仮置場設置運営訓練を黒島海浜公園に於いて11月21日に実施、また、3Rシステム事業化促進支援事業成果発表会を11月2日に実施と、シェイクアウトえひめに併せて12月18日に情報伝達訓練を実施すること、他今後の行事予定等について報告があった。

### 2. 報告事項

#### (1) 委員会報告

事務局より、第3回企画広報委員会では「えひめの資源循環第19号」の企画編

令和5年度第6回理事会 3月18日(月)

令和6年度第1回理事会 4月19日(金)

第12回定時総会 5月29日(水)



## 令和5年度 第4回総務委員会の開催

第4回総務委員会を令和5年12月4日(月)ネストホテル松山で開催した。議題及び協議結果は以下のとおりとなった。

### 1. 議 題

#### (1) 理事会提出議題について

事務局から、12月4日に開催する理事会の提出議題について以下のとおり説明があり、理事会提出議題として承認された。

##### ① 次期役員選考について

事務局より資料に基づき、次期役員選考方法についての説明があり、案のり理事会に諮ることとなった。

##### ② 第12回定時総会について

事務局より資料に基づき、令和6年5月29日にANAクラウンプラザホテル松山で、開催する旨の説明があり、案の通り理事会に諮ることとなった。

##### ③ 適正処理推進事業等活動支援金交付申請について

事務局より資料に基づき、松山地区適正処理推進事業計画について説明があり理事会で審議することとなった。

##### ④ 新規会員加入及び退会の承認について

事務局より資料に基づき、正会員1社の入会と1社の退会及び1社の業態変更（中間処理の取得）について説明があり、理事会に諮ることとなった。

#### (2) その他

第5回総務委員会については、3月18日(月)の14:00から、また、令和6年度第1回総務委員会については、4月19日(金)の14:00から、それぞれ開催することとなった。



## 令和5年度 第3回企画広報委員会の開催

第3回企画広報委員会を令和5年11月7日(火)、協会会議室で開催した。

### 1. 議 題

(1) 「えひめの資源循環」第19号(11月号)  
企画編集について

内容について協議し、「えひめの資源循環」第19号(11月号)を11月末に発行した。

(2) ホームページについて

・アクセス解析について(7月~9月)  
前年度対比の報告。

(3) その他

① 新年名刺挨拶広告について

・例年同様に理事・監事と青年部会に依頼する。

② 「えひめの資源循環」第20号(新年号)  
からの表紙について

・表表紙…テーマ「えひめの駅」

1月号 今治駅①に決定  
撮影者(貴田委員)

5月号 中予の駅

8月号 中予の駅

11月号 南予の駅

1月号 東予の駅

写真は各6枚に絞ってくる。

説明文も考えてくる。

・裏表紙…テーマは決めず各委員が撮影した写真の中から決める。

1月号 九島大橋

撮影者(濱口委員長)

5月号以降 ストックの中から決める。

③次回委員会の開催日について

・令和6年1月12日(金)13:30~WEBとの併用で開催

・編集後記…全員



## 令和5年度 優良産業廃棄物処理業者育成研修の開催

愛媛県からの受託事業である優良産業廃棄物処理業者育成研修会を、専門の講師を招き産業廃棄物処理業者を対象に下記の日程で開催しました。

### ○ 産業廃棄物経営戦略研修

開催日 令和5年11月30日(木)

開催場所 リジェール松山（JA愛媛）

受講者数 40名

研修内容

① 開講挨拶

② 講義1 「カーボンニュートラルに向けた取り組みについて」

（講師 大栄環境(株) 副所長 松本 明利 氏）

講義2 「カーボンニュートラル 現場レベルの内容

～KAYAMAのサステナビリティ経営について～

（講師 加山興業(株)

代表取締役 加山 順一郎 氏）



資源循環促進経済事業





## 令和5年度 松山市受託産業廃棄物処理実務者研修の開催 (産業廃棄物処理業者研修事業)

松山市受託の産業廃棄物処理業者育成事業である産業廃棄物処理実務者研修を、専門の講師を招き松山市の産業廃棄物処理業者を対象に下記の日程で開催しました。

### ○ 安全衛生研修

開催日 令和5年12月13日(水)

開催場所 リジエール松山(JA愛媛)

受講者数 22名

研修内容

① 開講挨拶

② 講義1 「安全配慮義務について」

(講師 中央労働災害防止協会  
広次 勝幸氏)

講義2 「感じて学ぶ安全体感教育」

(講師 株式会社イージーエス  
課長 真鍋 壮賜氏)

受講者全員で、動作中のギヤやベルトに挟まれ、巻き込まれた時の機械の力強さ、衝撃を実体感し、安全性への理解を深めた。







## 2023年度 産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の 許可申請に関する講習会の開催について

廃棄物処理法に規定された産業廃棄物処理業の許可申請等に必要な専門的知識・技能の修得のため、公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センターが毎年実施している講習会が、今年度は、インターネットで講義を受講する「オンライン形式」と、会場で講義を受講する「対面形式」により開催されている。

なお、愛媛県の試験は松山市の「愛媛県県民文化会館2階真珠の間」及び「リジェール松山8階クリスタルホール」の2会場で、開催結果は以下の通り。

### ○対面形式開催 会場（リジェール松山）

講習日時 2023年11月8日(水)～9日(木)  
講習会（課程） 産業廃棄物の収集・運搬課程（新規）  
受講者数 63名

### ○オンライン形式開催 試験会場（リジェール松山）

試験日時 2023年11月10日(金)午前  
講習会（課程） 特別管理産業廃棄物の収集・運搬課程（新規）  
受講者数 28名

試験日時 2023年11月10日(金)午後  
講習会（課程） 産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の収集・運搬課程（更新）  
受講者数 40名





## 3Rシステム事業化促進支援事業成果発表会の開催

協会では、愛媛県産業廃棄物処理業資源循環促進支援事業の助成を受け会員企業に対して研究・開発等事業や技術・設備導入事業に最大500万円の補助を行っておりますが、令和4年度の成果について、11月2日（木）にリジェール松山「クリスタルホール」において40名が参加して「3Rシステム事業化促進支援事業成果発表会」を開催しました。

西山会長のあいさつの後、基調講演として、株式会社環境と開発 代表取締役 田邊陽介様から「脱炭素社会における産業廃棄物処理事業の方向性」と題して、2050年までにカーボンニュートラルを目指すという政府の宣言を契機とする脱炭素社会の方向性、中でも廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラルに向けた動きや考え方、更には今後の産業廃棄物処理施設における脱炭素化の具体的な方向性について、事例を交えた平易でわかりやすいご講演がありました。

その後、令和4年度の事業成果について、株式会社愛亀の「回収プラスチックのアスファルト混合物への利用研究」、株式会社エヌ・ピー・シーの「太陽光パネルの高度リサイクル研究開発」、株式会社今治衛生の「プラスチック圧縮減容機設備導入」について成果発表がありました。





## 災害廃棄物仮置場設置運営訓練実施状況について

大規模災害発生時には、大量の災害廃棄物が発生することから、その処理が大きな問題となっている。

災害廃棄物は、一般廃棄物であり、その処理は一義的には各市町村が担当することとなるが、廃棄物処理・資源循環業界としても、その廃棄物処理に対する知見及び処理能力の面から、災害時には全面的な協力が必要とされている。

今年度、愛媛県新居浜市で、災害廃棄物設置運営訓練が実施されるにあたり、当協会では、愛媛県及び県内全市町と「災害時における災害廃棄物等の処理等の協力に関する協定」を締結し、その中で、仮置場の管理に関しても協力することとしていることから、今回の訓練にあたっても、全面的に協力を行った。

### ○令和5年度災害廃棄物に係る仮置場設置運営訓練の概要

- 1 主催 災害廃棄物対策四国ブロック協議会  
事務局：環境省中国四国地方環境事務所  
（事務委託先：三菱UFJリサーチ&コンサルティング）  
構成員：四国各県、各県(一部)市、四国地方整備局、学識経験者、  
全産連四国地域協議会、自衛隊14旅団（オブザーバー）
- 2 日時 令和5年11月21日(火) 13時から16時
- 3 場所 愛媛県新居浜市 黒島海浜公園







## 令和5年度 四国八十八箇所遍路道清掃活動実施報告

令和5年度の四国八十八ヶ所遍路道清掃活動については、愛媛県中予地方局不法投棄防止対策推進協議会（愛媛県、市町及び関係団体で構成）と協会の共催事業として以下のとおり撤去活動を実施しました。

- 1 日時 令和5年11月22日(水) 10:00~11:30
- 2 場所 重信川水系御坂川（松山市上野町～砥部町高尾田）（47番札所 八坂寺から、48番札所 西林寺間の遍路道沿い河川敷）
- 3 参加者 60名  
（一社）えひめ産業資源循環協会会員、青年部会員、事務局 48名  
（うち、松山地区 29名）

中予地方局不法投棄防止対策推進協議会構成員（愛媛県・松山市・東温市・砥部町） 12名

### 4 内容

愛媛県生涯学習センター駐車場に集合して、中予地方局不法投棄防止対策推進協議会のメンバーとともに清掃活動を実施しました。

○撤去ごみの量 320kg

可燃物（ペットボトル、プラ系、木紙繊維） 220kg

不燃物（ガラス、金属） 100kg

### 清掃活動実施場所









## 令和5年度 県外施設視察研修

令和5年度の県外施設視察研修は、東北・関東方面で、令和5年11月28日(火)及び29日(水)の2日間実施しました。視察先及び視察概要は以下のとおりです。

### 1 いわき大王製紙(株)

いわき大王製紙(株)では、2001年に業界初となるバイオマス発電設備を導入し、地球環境に配慮した工場経営を進めて来られました。

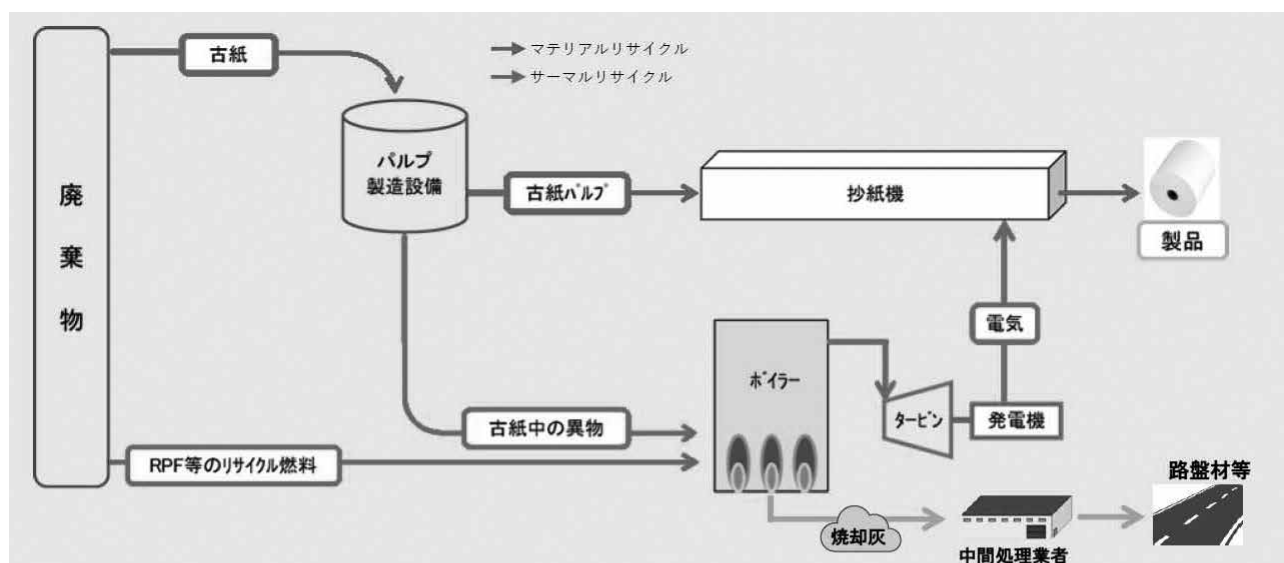
具体的には、年間約60万トンの古紙をリサイクルし、新聞用紙、段ボール原紙に再生しているほか、難処理古紙（異物が多く従来は古紙として利用できなかった紙）の増利用を進めており、原料として古紙を高度利用することで循環型社会に貢献されています。

今回、燃料としての利用が難しいとされる、廃棄物由来の燃料も使用可能な発電設備（5号ボイラー・3号タービン）を新規導入し、2023年2月より営業運転を開始されました。

中でも、このボイラーの特徴として、塩素濃度の高い廃棄物も受け入れが可能で、現在、愛媛県で大きい問題となっている海ごみの処理において課題となっているごみが含有する塩素分への対応方法として、非常に有効な方向性が示されています。



それにより、環境負荷の少ないバイオマスや廃棄物由来の燃料を使用して工場の電力を自家発電するとともに、古紙の処理工程で取り除く古紙中の異物（廃プラスチック系のゴミ）もボイラーの燃料として使用、また、焼却後の灰は路盤材等に再利用されています。



### 新設5号ボイラー・3号タービン主要設備



ボイラー本体



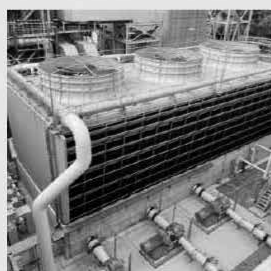
排煙脱硫装置



煙突



3号タービン



冷却塔



灰処理設備



トラックダンパー



燃料サイロ

なお、今回の施設見学は、協会の3R事業検討会の委員をお願いしている、愛媛大学大学院工学研究科の中原真也教授のお骨折りと、大王製紙本社のご協力を得て実現しました。

## 2 積水ハウス(株)「積水ハウス エコ・ファースト・パーク」

積水ハウス(株)では、同社が取り組み続けてきた、環境活動の中で象徴的なモデル施設群を関東工場に集め、同社が「エコ・ファーストの約束」で示した3つの環境テーマ（「地球温暖化」「生態系保全」「資源循環」への取り組みが体験できる施設）として、2015年に各施設を一般公開しました。



本施設は、快適な暮らしのためには環境配慮設計や技術が不可欠であり、エネルギーをなるべく使わない、生態系を壊さない、廃棄物を出さないといった地球環境を守るために住まいが果たす役割が多くあることを体感しながら楽しく学ぶことができる施設となっており、広く一般の方々に公開し、特に、学生・生徒を対象にした環境教育プログラムの実施や、大学生や高校生に住まいと環境の関係を理解する教材の場として利用されています。

これらの施設群としての「エコ・ファースト・パーク」は、茨城県次世代エネルギーパークの構成施設ともなっており、今回の視察に当たっても、茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会事務局の（一財）茨城県科学技術振興財団つくばサイエンスツアーオフィスにお世話になりました。

## 「積水ハウス エコ・ファーストパーク」って??

積水ハウスが取り組み続けてきた、環境活動の歴史の中での象徴的なモデル施設群を関東工場に集め、「エコ・ファーストの約束」で示した3つの環境テーマ（「地球温暖化」「生態系保全」「資源循環」）への取り組みが体験できる施設として2015年に一般公開しました。

「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」による、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の先駆けとなる実証実験住宅や、廃プラスチックを細かく分別して資源に戻す取り組みなどが見学できます。

注目!

「地球温暖化」を“暮らし”から解決

### 風の家



まちなかで、光や風を感じながら、自然と調和した暮らしを楽しむ

### あしたの家

1.5℃目標達成への住まいのカたち(先駆け)



CHECK!

省エネ・創エネ・蓄エネによる、世界初のゼロエミッションハウス

### 木の家



CHECK!

先進のネットワークでつながる懐かしく快適な暮らし

「生態系」問題を“庭”から解決

### 生きものの庭



在来樹種を中心に里山を手本にした「5本の樹」計画に基づく庭

「資源」問題を“建設現場”から解決

### 資源の泉



建設現場の廃棄物を分別、100%再資源化する「資源循環センター」

CHECK!  
管解体職人や約20種のプラスチックを分別するプロに会える

特に、この施設群の中で、私共の廃棄物・資源循環業界にかかわりの大きい「資源の泉 資源循環センター」に関しては、積水ハウスの新築工事現場で、全ての廃棄物を27種類に分別。

分別時にICタグを取り付け、専用のタグ読み取り装置や無線でつながった計量器で重さを量り、「資源循環センター」で現場で回収した廃棄物を80品目に分別し、100%リサイクルを達成しています。



### 3 まとめ

今回の視察研修において、いわき大王製紙(株)では、高濃度の塩素を含む廃棄物にも対応した最先端の発電ボイラーシステムを、積水ハウス(株)ファースト・エコ・パークでは、環境に配慮した多様な施設、特に建築廃棄物のリサイクル100%を達成している資源循環システムを視察させていただくことが出来ました。

まだまだ、大企業だからこそ取り組めた面もあるものの、現在のゼロカーボンへの時代の流れや技術のブレイクダウンの急速な進展を考慮すると、我々の業界でもできることから積極的に取り組むとともに、近い将来に、今回視察させていただいたような設備を率先して導入する必要もあるものと感じることが出来ました。

最後に、今回の視察に対しお世話になりました、いわき大王製紙株式会社様、大王製紙株式会社様、積水ハウス株式会社関東工場様、愛媛大学大学院中原先生、茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会様に、改めて御礼申し上げます。





## 情報伝達訓練の実施

12月18日、当協会は愛媛県が実施する「シェイクアウトえひめ」にあわせて以下の内容で情報伝達訓練を行いました。

正会員の367名に対し情報伝達訓練を実施した結果、282名（76.8%）の方にご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。来年も実施いたしますのでご協力をお願いいたします。

令和5年12月18日東南海地震により愛媛県内で甚大な被害が発生しております。

つきましては、協会の被災状況を把握したいので、下記にご記入の上協会までFAXで直ちに回答下さい。

(被災状況及び支援可能性の内容は架空で構いません。)

(回答)

えひめ産業資源循環協会 行き (FAX 089-986-3451)

会員名 \_\_\_\_\_

担当者名 \_\_\_\_\_

受信確認日時 \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_時 \_\_\_\_分

被災はありますか                      被災有り ・ 被災無し

市町に対して支援できますか      支援可能 ・ 支援不可

(どちらかを○で囲んでください)

(伝達事項等)

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

(参考)

「シェイクアウトえひめ」とは

愛媛県は、えひめ防災週間（12月17日～23日）にあわせて、地震発生時の安全確保行動の確認や防災意識の向上を図るため、県下一斉に「シェイクアウトえひめ（県民総ぐるみ地震防災訓練）」を12月18日(月)に実施します。

この訓練は、その場で  
 「(1)まず低く=DROP!」 → 「(2)頭を守り=COVER!」 → 「(3)動かない=HOLD ON!」  
 の安全確保行動を約1分間行うもので、誰でも、どこでも参加することができます。

